
のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

デュアル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WORLD」

【Nコード】

N6961Z

【作者名】

デュアル

【あらすじ】

主人公が目覚めた場所はなんとドラえもんの世界！だがそこは地獄化としていた・・・

主人公とオリキャラ？とドラえもんのキャラクター達は生き残れるのだろうか！？

はい、ちなみに自分は、初投稿で 国語・銃名・（PC）ほとんど「0」です！なので駄作です。それでもいい方は、読んでいただければ嬉しいです。

恋愛・友情・みたいのは入りたいと思います チートみたいに強す

ぎます。てかチートです 無理な人は控えめに・・・
注意パクリ要素や作者の欲望が入るときもあります。そんなことは温かい目で見ていただければ嬉しいです・・・

ブログ（前書き）

最初の投稿失敗したので削除してまた書き直しました

プロローグ

今、ドラえもんの世界にいる・・・僕の名前は あまの ひかる 天野 輝

目覚めたらドラえもんの世界にいた、それに気づくまでの話

輝「どこだここ？」

目覚めた場所はどこか倉庫の中

輝「確か僕は、交通事故に合い死んだはず・・・とりあえず出よう」

輝は、外に出て人を発見した。ここがどこかを聞こうとして近寄っていく

輝「すみません、ここどこです・・・！」

言葉を飲み込んだ理由は・・・人が人を喰ってるじゃないか！

輝「あ・・・ああ・・・うわああああああ！」

全力でその場所から走り出す、もてる全ての力で走る

その途中も悲鳴や奇声も聞こえていた

「キヤーー！」

「「あああゝゝ」」

倉庫があって開いていたから、中に飛び込んだ

輝「はゝ・・・はゝ・・・なんだったんだよ・・・」

と言った後すぐにの声がした

？「誰ですか！？」

生存者の声！自己紹介をしとかなないと

輝「僕は天野 輝です」

？「生存者ですか、僕は野比のび太です」

互いの自己紹介が終わり

輝は疑問に思うことがあった

輝（野比のび太・・・まさか！）

心の中で何かを確信する輝だったそして自分の持っている能力にも
だんだん気づいていく・・・

プロローグ（後書き）

良くしていきたいと思います小説もPCも・・・

では終わり♪

第一話（前書き）

作者「駄作でスイマセン」

のび太「駄作すぎます」

作者「ううゝ・・・のび太に言われると傷つく」

のび太「（ムカ）」

作者「後書きコーナーで何かしようとおもっています。では
輝「始まります」

第一話

輝「のび太君は、どこに行く予定だったのですか？」

のび太「はい、避難所の学校へ行こうかと思ってたのです」

その言葉を聞いた輝は生存者がいるかもしれないと思った

輝「僕も付いて行きます。もしかしたら知ってる人に会うかもしれない・・・」

輝はこっちに知り合いがいると感じているのかもしれない

のび太「分かりました。付いてきてください」

のび太に付いてくと倉庫の出口らしきドアがあった。ドアを開けると外に出た

のび太「そとは、相変わらずですね」

と、のび太が言う

輝「はい・・・そうですね・・・」

と、悲しそうな顔で言う、輝

のび太「学校まで後ちょっとですが、そういえば輝さん武器はありますか？」

輝「いえ、ここに来るまでも何回か死にかけました。」

のび太「ならこれあげます。一つと使いかたがわからないこれあげます」

そう言って出したのはハンドガンベレッタと小さいチャクラムを出した

輝「ありがとうございます。（このチャクラム戻ってきそうだな・・・）

と色々心の中で考えていた輝であった

のび太「速めに行きましょうまた、ゾンビ達が来ます」

輝「あ、すいませんでは、行きましょうか」

そう言って進んでいくとゾンビが向かってきた

「あああゝ」

輝「一体の様ですね、僕がやってみます。本当は殺したくありませんが！」

と言いつ残し先ほど貰ったチャクラムをとりだす。そして投げた輝「ふん」

投げたチャクラムはまっすぐゾンビに向かい首元をかつ切ったそして血まみれのチャクラム（刃先）が戻ってくる

輝「・・・殺しちゃったよ本当に」

のび太「輝さんこういう時は自己防衛だからしょうがないです・・・」

のび太は悲しい顔をして言った

輝「のび太君・・・一緒にがんばりましょう！」

のび太「はい！」

そんな話をしている間に学校の校門前に付いていた

のび太「付きました」

そして学校に入っていく二人

のび太&輝「ッ！！！」

二人が見たものは・・・犬！そう人を食べている犬

のび太「犬までもがゾンビに・・・」

輝「簡単には通さしてくれないようですね」

犬「「ガルルルル」」

のび太「別れて戦いましょう！」

輝「分かりました」

のび太は 犬の頭にピンポイトで打ち抜いたそのころ輝といえば

輝side

輝「これでも喰らえ」

そういつてチャクラムを投げた それが足を全部切り落として、ゆっくりと犬へ向かっていく

輝「さようならだ」

ハンドがんで頭を打ち抜いた

のび太「終わりましたね」

輝「終わったね」

と交互に言い合った

そしてついに学校の中へと入るのであった

第一話（後書き）

作者「輝君に質問です」

輝「はい」

作者「何が得意ですか？」

輝「体育です」

作者「次は、好きな事は何ですか？」

輝「読書とパソコンと同居してる女の子の（次回でます）手料理ぐらいですね」

作者「なるほど質問は以上です。次回をお楽しみに」

輝「次回は生存者がたくさん居るよ」

作者&輝「「終わりです」」

第二話 保健室&無駄な話しあい？（前書き）

作者「文字が少なければすいません」

輝「なんで、ですか？」

作者「PCのメモ帖から書いてるからだ」

のび太「本当に駄目な作者ですね」

作者「のび太に言われたくないんだけどな・・・」

輝「すみません、長らくお待たせしました。始まります

第二話 保健室&無駄な話しあい？

学校内に入ったのび太と僕は近くの教室から生存者を探すのであった
輝「さっきのは危なかったですね、あとのび太君入り口から一番近い教室はどれですか？」

のび太「目の前の保健室です。あと輝さん犬やる時に結構グロイやりか」のび太君まず自分から入ります後から来てください」
途中で言ってることを邪魔されたのび太であった

のび太「わかりました・・・」

そういつて、のび太は警戒態勢に入っていた

輝「保健室ここですね」

そういつて静かにドアを開けた。開けた瞬間中から声が
？「誰だ！！」

バットを構えたゴリラの様な男の子が言った

輝「待ってください、僕は生存者です」

と言ったらバットを収めてくれた

？「脅かすなよ・・・」

輝「ごめんなさい」

と、言うやり取りを終えた後すぐに誰かの声がした

？「輝——！！」

輝「？」

輝は声のした方に向いた瞬間・・・

輝「ゴホ！！」

いきなり抱きつかれた

？「輝だよね？輝だよね！？」

と、聴かれたので

輝「ああ、そうだよ。てか、いきなり何するんですか真理奈！」

真理奈「ご、ごめん輝！嬉しくてつい／＼／＼」

そのときにのび太がちょうど入ってきた

？「僕は、骨川 スネ夫」

？「俺様は剛田 武皆からはジャイアンと呼ばれている」

？「僕は、一年の山田太郎！」

？「白峰だ・・・」

？「私は、桜井咲夜よ」

？「私は、源 静香です」

？「この町の町内会長をやっている 金田 正宗だ」

輝「僕は、先ほど言った。天野 輝です。あそこに寝てるのが星野^{ほしの}

^{まりな}真理奈です」

真理奈「ううん・・・ 皆さん何をしてるのですか？」

起き上がった早々に言う

輝「皆さん、すみませんトイレ行きます。真理奈付いて来てくださ
い」

真理奈「あ、うん」

そう言うって保健室を出た。そしてトイレに行かず空きの教室に入っ
た。真理奈はわからないようだ

真理奈「輝、トイレに行くんじゃないの？」

と、的外れみたいに言われた。から説明をした。

輝「それ、出るための口実です。で、ですね真理奈ここはどこだと思
います？」

真理奈「え、えーと・・・ ススキが原という名の町・・・ あ、まさ
か！」

輝「気づいたみたいだね、そう、ここはドラえもんの世界なのです」
真理奈の前で言ったが真里菜は「なぜわかるの？」見たいな顔をし
ている

輝「よく考えてみてください、野比のび太と言う男の子とその4人
の友達たちそして、ススキが原という町の名前、同考えても僕達の
世界での漫画・アニメに出ています」

真里菜「よく考えたらそうね・・・」

輝「その話は置いて、真里菜お前どうやってこの世界に来たの

ですか？」

真理奈「輝が死んだ後に私泣きながら寝たのそのとき夢の中で誰かが輝と会えるといわれたから」

真理奈はそれまでの出来事を話していた

？「目覚めよ、真理奈よ」

真理奈「あなたは誰？」

？「私は、あなた」

？に光がまとった。眩しすぎたから真理奈は目をつぶってしまった。もう一度目を開けたときは、もう一人の自分がいた

真理奈「わ、私がもう一人・・・」

真理奈（夢）「そう 私は、あなた」

と、夢の世界の真理奈が言う

真理奈「気私が悪いけど私が私に何のようなの？」

真理奈（夢）「あなたは、愛しい人に会いたいですか？」

真理奈「まさか、輝に会えるの！」

真理奈（夢）「はい、会えます。1ヵ月後にあなたは死にますよ」

真理奈「え？死ぬの・・・」

真理奈（夢）「そこです。あなたを輝君のいる世界に飛ばします。輝君の方に行くのならこちらの世界では心臓発作で死んだってことになります。痛みは感じません、それか輝君と会わずに1ヶ月過ぎとして痛みを感じて死んで輝君と会わないかです。どちらにしますか？」

真理奈「・・・輝の所に行きます！」

真理奈（夢）「私ならそういうと思ってましたよ♪では、送ります」

真理奈「待って、あなたをなんて呼べばいいか教えてください」

真理奈（夢）「あなたが呼びたいように呼べばいいです」

真理奈「じゃ・・・美月 星野 美月と呼んでいい？」

美月「星野 美月・・・いいですね！」

真理奈「よかった」それと人格に移り住むこと出来る？」

美月「いけますがどうしてですか？」

真理奈「いつでも話せるようにと何かあったら直ぐに替われるようにです」

美月「なるほど、じゃ、あちらで話しましょう、では飛ばしますよ」
キューン↑テレーポートの音 ポン↑到着音

輝「で、いまにあたるって事ですか」

真理奈「うん／＼／＼（輝と二人つきりだ／＼／＼）」
と、内心思っていたが

美月（真理奈、なにをかんがえてるの？・・・）

と、美月に突っ込まれる真理奈

真理奈（ごめん、美月つい、考えちゃった・・・）

輝「真理奈、どうかしましたか？」

心配する輝

真理奈「大丈夫だよ 美月と話してただけだから」

輝「ならいいですが・・・またの機会に美月さんとは、話してみたいですね」

真理奈「またの機会にね♪」

と嬉しそうに言い返す

美月（いい感じだな君たち・・・）

そう思う美月だった

輝「さて、もうそろそろ戻ろう、皆さんが心配してるだと思いますし」

真理奈「そうだね」

そう言って保健室に戻るのであった

第二話 保健室&無駄な話しあい? (後書き)

のび太「作者なんですか、(のび太も) って!!」

作者「急いで直していたんだ。直してない所もあるかも・・・」

輝「あの二人放っておいて、おきましようか」

真理奈「だね」

輝&美月「後書きコーナー始まるよ」

輝「今日のゲストは、同居している星野 真理奈さんです。(スト

ーリー場は、言ってません)

真理奈「よろしくお願いします」

輝「早速ですが、好きなことなんでしょう?」

真理奈「料理にテレビに家事、かな」

輝「次に何個か能力を教えてください」

真理奈「動物との会話と未来予知あとは、・・・秘密です♪」

輝「なるほど、最後の質問です。好きな人はいますか?」

真理奈「そ、それは／＼、・・・」

美月「(私が言うよ)」

真理奈「(まって、)」

美月「真理奈が好きな人は、あな「(まってー!!!!)」」

真理奈「それでは、失礼します!!」

輝「真理奈がすごいスピードで走っていききましたね」

作者「終わりです。後書きコーナー長くてすいません」

天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介（前書き）

作者「作者のデュアルです。もうデュアルでいきます。輝と真理奈ちゃんの書いてみたのですが、なかなか思いつかなくて、適当です。」

輝&真理奈「「酷いですね（わね）」」

デュアル「国語0の自分に言われても・・・」

輝「やっぱ、駄目作者ですね」

真理奈「がんばってくださいよ。駄目作者さん」

デュアル「うう・・・真理奈ちゃんまでに言われるとは、ではどうぞ」

輝&真理奈

「「どうぞ」」

天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介

名前 天野 輝

性別 男

年齢 16歳

性格 憎めないほど鈍感

たまに悪魔化（腹黒と思っておいってください）

優しい

仲間思い

外見 リボーンの沢田 綱吉の死ぬ気モードの炎がないバージョン
とっていてください、服はご想像でまかせます（作者が思いつか
なくてすいませんby輝）

好きなもの 仲間を大切にする人

甘いもの

真理奈の手料理

嫌いなもの 仲間を大切にしない人

自分の料理

悪い人

能力は 思いつきしだい出します。思いついてるのはこれです「デ
ュアルハンド」銃・剣・大体のものを両手で使いこなす（マグナム
やコルトパイソン含めて、いたって、普通ですね・・・）

名前 星野 真理奈

性別 女

年齢 15歳

性格 優しい

純粹

仲間思い

寂しがり

外見 金髪のロングヘア、見た目はスリム、目は黒って言うより青っぽい（日本人です）胸は・・・でかめ、服装はご想像でお任せします

好きなもの テレビ

料理

風呂

輝（笑）

家事

嫌いなもの 仲間外れ

ナス

ピーマン

野菜類何個か

悪い人

能力は 第二話の後書きコーナーに載せてあったのと 陰陽師設定です

名前 星野 美月

性別 女

年齢 15歳

外見 真理奈と同じ 口調が猫口調

好きなもの 真理奈と同じ

嫌いなもの 虫

暗闇

犬（大人の犬）

能力は 基本真理奈と一緒に、フェニックス（不死鳥）を呼ぶことができる。名前は ムウ だそうです。

真理奈とムウ（フェニックス）を共用できる

天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介（後書き）

輝「駄目作者なんですか？、僕たまに悪魔化って」

デュアル「ゼクセルさんの星也君とかぶるから悪魔化にしておいた」

真理奈「作者さん」

デュアル「どうしました。真理奈ちゃん？」

真理奈「いっぺん死んでみますか？」

デュアル「なんで！？どうしたの！」

輝&真理奈

「「今日は作者をばこにするのでここでお仕舞いです（終わりです）」」

デュアル「ちよっ・待ってくれえええええええ！」

ぎゃああああああああ

話し合い・探索「1階」(ちょっと)(前書き)

デュアル「話で長くなりました。探索ちよつとですが申し訳ございません」

輝「本当にあなたを作者と呼んでいいものか・・・」

真理奈「私の出番少ないような・・・」

のび太「僕の扱い皆ひどい・・・輝さんと真理奈さんと咲夜さん以外酷い・・・」

デュアル「では、始まります」

話し合い・探索「1階」(ちょっと)

保健室に戻った輝真理奈(美月) 皆は当たり前前に心配していたのび太「遅かったじゃないですか! 皆心配してたのですよ!」

のび太は怒ってるのか心配してるのかごちゃ混ぜみたいと言った輝「ごめん、途中にゾンビが出たもんで・・・すみません」

と、誤魔化す輝

ジャイアン「みんなの無事は確認した。早速だが何人かで一組になって探索する。わかったか?」

一同

「ああ! (ええ!)」

と一同声を合わせた

スネ夫「裏山に隠れるのってどうだい?」

一同

「「いいねー(いいんじゃない)」」

静香「でも食料はどうするの?」

静香以外一同

「「あ!?!?」」

当たり前前に驚いた

ジャイアン「じゃ、俺はスネ夫と近くのスーパーに行って食べれるもんと使えるもんを持つてくる」

スネ夫「何で僕が・・・」

ジャイアン「言いだしっぺはお前だろ!、つべこべ言わずに来い、殴るぞ!」

脅すジャイアン

スネ夫「わかったよ」

いやらしそうに言った

のび太「僕は、輝さんと行動します」

輝「自分でいいですか?」

内心不安げな顔をして言う輝、それ見てかわいいと思ってる人物が二人、真理奈・咲夜の二人

のび太「たまに悪魔化してますが非常時だから突っ込みません」
サラッと酷いこと言ったのび太

輝「悪魔化って・・・うう・・・」

今にも泣きそうな輝 心に傷が付いたようだった
そのころ真理奈はというと・・・

真理奈「輝、かわいいと思いませんか？／／／咲夜さん」

咲夜「ええ、かわいいは／／／」

静香「二人とも顔が真っ赤になってるわよ」

真理奈・咲夜「「え！？うそ／／／」」

もっと顔を赤くする二人であった

出来杉「僕は、白峰さんで行こう」

白峰「ち、団体行動は嫌いなんだ。」

いやらしそうに言う白峰

出来杉「ははははははは（汗）」

笑ってごまかす出来杉

大丈夫だろうかこれ？・・・b v作者

輝「何か聞こえたような・・・まあ、いいですか」

真理奈「私、輝と一緒にいきます！」

輝「真理奈、咲夜さんたちといった方が「行くもん、何を言われても行くもん！」

言っていると途中で切られて、真理奈の方を見た。真理奈は泣いていた

輝「ごめんね、だから泣かないで、わかったから ね？」

子供をあやすように言う輝

真理奈「うん・・・」グス

こうゆう時の真理奈はあやすのが大変だ・・・

咲夜「私たちは、裏山に行ってハーブをつんで来ましょうか」

静香「わかりました」

太郎「はい」

金田「私は、ここで待っている。」

待機一人 死亡フラグだぞおい・・・b y作者

輝「待ってください、連絡手段どうしますか？」

のび太「職員室に携帯があるからそれ貰っていきましょう」

のび太ナイスだb y作者

輝「自分があるので電話番号置いて置きますね」

真理奈「私も」

咲夜「まず、私たちで交換しておきましょう」

輝&真理奈「「持っていたのですか！」」

同じタイミングに驚く 輝と真理奈

咲夜「持っていたわよ？」

ビックリしている二人に冷静に言う咲夜

ジャイアン「とってきて、ここに戻ってから解散わかったか？」

一同

「ああ（ええ）」

携帯持っていないグループが職員室に行った

銃声が聞こえたからのび太が応戦してるのだろうしばらくして皆帰ってきた

のび太「疲れました」

のび太と行ったグループ

「「たすかったよ（ぜ）」」

ジャイアン「全員持ち場に付いて行動だ。解散！」

輝「さて、のび太君どこから行きましょうか？」

のび太「北側の教室から行きましょう」

のび太についていく輝と真理

トビラの前に付く

のび太「まずここから調べましょ」

輝「っ！！！！、待ってください！！！」

のび太が輝がの言った事を聴いて入るのを止めた

真理奈「？」

頭に？マーク付いてる人1名

輝「入るのは、僕だけでいいです。のび太君が入りたいなら一緒に入りましょう。真理奈は絶対にここに待機です。」

いやな予感がする輝。それに気づいたのび太 相変わらず分かってない人1名

のび太「僕も行きますよ。輝さんだけ危険な目にあわせませんよ」

輝「のび太君・・・わかりました。行きましょう！」

そう言い残して入ってくのび太と輝

輝「うっ・・・これは酷すぎる」

輝とのび太が見たものは、頭の無い死体や下半身だけの死体それにいろんな所を食いちぎられた死体

のび太「これは、いくらなんでも酷すぎる・・・ウッ！」

今にも吐きそうなのび太

輝「のび太君は、外に出ていてください。後は自分で探索します。」

のび太「でも・・・」

心配そうに言うのび太

輝「大丈夫です。後は任せてください。」

のび太「・・・わかりました」

出て行ったのび太

輝「さて、探索しますか、ん？あれは・・・」

何かを見つけた輝

輝「これは、『相談室』の鍵と書いてあるみたいです」

確認していたとき窓ガラスが割れた

輝「！！」

そこにいた者とは・・・

犬（生存）「ワンワン」

輝「え？生きてる犬・・・しかも子犬・・・」

改良してみました（笑）b y 作者

犬（生存）「ハッ・ハッ・ワンワン」

輝「一回出ましようか、こっちおいで」

犬（生存）「ワン！！」

犬と出る輝

外ではゾンビとやりあってた真理奈とのび太

え？なぜ真理奈が戦ってるって？マシンガンのM10を持っていたからだよb y作者

真理奈「拾ったんです」

聞こえてるのかい？b y作者

真理奈「はい」

純粹だね〜b y作者

真理奈「そうでもありません。現に人殺してますし・・・」

自己防衛だ気にするなb y作者

のび太「終わりました」

話して間に終わった

輝「一回保健室に戻りましょ。この子犬を置いていかないと」

真理奈「わかったわ」

そう言って戻っていく3人と一匹

話し合い・探索「1階」(ちょっと)(後書き)

デュアル「文字間違ってからすいません」

輝「さすがです。馬鹿作者、ゼクセルさんや超人類さんやそのほか小説かいてる人を見習ってください」

真理奈「ホラー小説なのに怖くないような気がします」

デュアル「書けないから、これで行くよ(笑)」

輝&真理奈

「「終わりです(だよ)」」

第四話 探索「1階」大体（前書き）

デュアル「この作品自身なんだよね」

輝「なぜですか？」

デュアル「ミスったら40話近くなったりしてね、と思って・・・」

真理奈「40話って・・・多いですね・・・」

デュアル「だから、省略して以降と思う（笑）」

輝「馬鹿作者は、放っておいて、始まります。」

第四話 探索「1階」大体

保健室に戻った。のび太・真理奈・輝の三人

輝「まだ、誰も戻ってないですね、金田さん」

金田「なんだね？」

輝「この子犬見ていてくれませんか？」

真理奈「この子の名前は、ミルクです」

ミルク「ワン！！」

シッポ振るミルク 嬉しいんだねミルクb y作者

ミルク「ワン！ワン！♪」

輝「ごめん、今聞きましたよ名前。では、このミルクを見てくれませんか？」

金田「ああ、いいぞ」

あっさり許可してくれた

輝&真理奈「お願いします」

のび太「（なにもいってません・・・）」

悲しいことを思っていたのび太

輝「探索に戻りましょうか」

のび太・真理奈「はい（うん）」

のび太「次に西の方に行きましょう、確か家庭科室の隣に倉庫があったはず」

輝「行ってみましょうか」

真理奈「私は、いやな予感がするから美月に替わるね。（美月、交代して）」

美月「（わかったよ。じゃっ行くよ）」

美月「外の空気気持ちいいわね♪」

出てきて、すぐはしゃぐ美月

輝「真理奈？」

美月「うんにゃ、違うよ私は美月、もう一人の真理奈です」

美月「まかせて、ムウちゃん出てきて」

ムウ「何でしょうか？美月様」

美月「立ってるうるさいやつら燃やしちゃって、お願いにゃ」

ムウ「承知しました」

「素晴らしい残し、燃やした。」

輝&のび太「「すごいですね!!」」

目をキラキラする二人

美月「えへへへ／＼／＼（輝君カッコいいしかわいい／＼／＼真理奈の見込み外があるとおりですね。）」

ムウ「美月様、真理奈様と私を共有するのですか？」

美月「お願い、ムウちゃん、（真理にゃん、交代するよ）」

真理奈（真理にゃんって・・・でも交代するわ）

輝「真理奈？」

真理奈か確かめようとする輝

真理奈「輝ー！うわーん」

突然泣き出す真理奈、そして座り込む

輝「うわ、どうしました。真理奈、急に泣いて、座り込んで・・・しょうがありません、僕がおぶって行きます。のび太君」

のび太「わかりました。「援護」ですね？」

輝「はい、しばらくお願いします」

真理奈をおぶりながら言う輝

のび太「家庭科室行きましょう。隣ですし」

輝「わかりました。真理奈行けますか？」

真理奈「うん」

さっきの部屋を出て隣にある扉に入ってく3人そこには死体があった・・・

のび太「豚ゴリラの給食のおばさんだ・・・」

輝「さり気なく酷いこと言ってますね。のび太君」

のび太「あそこのトビラ入りましょう。」

輝「わかりました。ってあれ開いてませんね・・・蹴り破りますか」

のび太「え？」

真理奈と言えは輝の背中では寝ていた

真理奈「輝・・・むにゃむにゃ」

輝「せいや！」

バーン（↑効果音）扉を蹴り破った

のび太「最近、輝さんが人離れしてきましたような気がします。」

そのころの真理奈

真理奈「もう食べれないよ・・・」

すごいな、まだ寝ているby作者

輝「？、あれは生存者じゃありませんか？」

のび太「輝さん、あれは、はる夫です」

輝「はる夫くんですか」

はる夫「その・・・声は・・・のび犬・・・か？目が・・・見え・・・
ないん・・・だよ」

のび太「大丈夫か？はる夫！？」

はる夫「のびた・・・気をつけろ・・・体育館には・・・ばけ・・・
もの・・・が」

そーいい残したはる夫は横たわって死んだ

のび太「はる夫おおおおおおおおおおおおおおおお！
！」

大きな声で悲しむのび太

輝「巨大な何かに噛まれた跡がありますね・・・」

分析をする輝

真理奈は・・・

真理奈「後十分寝かせてムニャムニャ」

まだ寝ていた　すごいな

輝「真理奈・・・のび太君行きましょう・・・」

のび太「・・・はい」

悲しい顔をして出ようとする二人（三人）後ろから
？「あああああ」

輝&のび太「「なんですか!?(だ)」

二人が見たものとは

のび太「はる……お……」

はる夫であった

はる夫^{ソレン}「あああゝ」

輝「やらなければやられる。ごめんなさい、はる夫君」

ハンドガンを取りだし頭を打ち抜いた

輝「ごめんね、はる夫くん、のび太君行きましょう……」

のび太「……」コク

給食室を後にする3人

輝「次は、体育館に行きましょう。」

そう言って体育館に向けて歩き出す2人

第四話 探索「1階」大体（後書き）

はる夫「おい作者！」

デュアル「なんだい？」

はる夫「なんだい？じゃねえよ。俺の退場はやい&ゾンビ化ってなんだ！」

デュアル「思いつかなかったから、採用もされてないようだし使ってみた。たぶん」

スネ夫「行って早々死んでゾンビ化まじワロタ」

はる夫「だまれ、狐顔、アホ作者どうなんだよ！」

デュアル「うるさい、消えろ・・・デュアルUZI装備、さようならはる夫」

はる夫「ギヤアアアアアアアアアア」

輝「何してるんでしょあの人たち」

真理奈「わからないから、次回宣伝しましょ♪」

輝&真理奈

「「今回は体育館へ・・・です（だよ）」」

第五話 体育館へ&生存者発見!?(前書き)

デュアル「皆様こんにちは、新年まであと少しですね」

輝「馬鹿で糞、作者少しってまだ11時間以上ありますよ」

真理奈「来年から、もうちょっとがんばってください」

デュアル「がんばりますが、せいっぱいですこれが・・・」

輝「年越し前だから許します。次は、そう行きませんよ」

真理奈「それより」

美月「始まるみゃ」

第五話 体育館へ&生存者発見!?

輝「のび太君、体育館まで道案内お願いします。」

のび太「わかりました。輝さんとりあえず真理奈さん起こした方が・
・・」

輝「ですね、真理奈起きてください」

起そうとする輝だが真理奈は・・・

真理奈「後5分だけ・・・むにゃむにゃ・・・」

だ寝ている

どんだけ輝の背中気持ちいんだよ・・・by作者

のび太「輝さ〜ん、ゾンビいっぱい来てますがどうしますか？」

「「アアアア〜」」

見たことざっと5体のようですね

輝「のび太君、真理奈をお願いしますのとハンドガン貸してください。
い。」

のび太「わかりました。」

ハンドガンを投げたのび太、
パシッと受け取る輝

輝（能力開放 デュアルハンド）

そのときの輝の目が両方青になった

のび太「輝さん？どうしました・・・」

輝「・・・いきますよ！」

まず目の前の2体打ち抜き、次後ろの1体排除、ラスト横の2体脳天打ち抜き

輝「ふう〜、終わりました。」

のび太「すごいですよ。輝さん！」
褒めるのび太

理奈「すごいわ、輝」

輝「真理奈起きたんですか、たぶん（駄目）作者も言うと思いますよ。」

ちっ、輝め b y 作者

輝「のび太君これ返します。」

ポイット投げて渡す輝

のび太「あわわ、キャッチ！投げないでくださいよも・・・」

輝「ごめん、ごめん」

輝「よ今、軽くなったような・・・」

真理奈「で、どこに行くのですか？」
寝てた真理奈は行く場所しらず

輝「体育館ですよ」

説明する輝

作者「読者の方々すみません、色々すっ飛ばします。」
体育館前到着

輝「作者のやつ、手抜きしましたね。」

真理奈「ですね。後書きコーナーでお仕置きしないとね。フッフフ・
・」

ブラックのび太「僕も行きますよ。作者をこらしめに　クククク・
・」

あなたたち怖いよ。恨みでもあるのかい？自分に　b y 作者
3人

「「あります（あるわよ）」」

じゃあとで聞くよ　b y 作者
バン！バン！

輝「銃声！中からです。行きましょう」

真理奈「はい、逝きましようか！」

のび太「真理奈さん、『いく』間違ってます・・・まあ、いいです
か」

言い残し入ってく3人

？「誰だ！？今入ったら危ない巨大な化け物がいる」
？「怖いよう、うう・・・」

輝「変態君、大丈夫ですか！？」
心配する輝

？「誰が変態だと！危ない、輝！」

輝「え？」
言われた瞬間何かに追撃されたそして壁にめり込んだ輝、だが相手の姿が見えない

「ギャオオオオオオオオオオオオ」

輝「ガハッ！・・・（僕、こんな所で死ぬのでしょうか、・・・あれ？体が軽くなってきました。力もわいてきます）」

？「かる・・・ひか・・・輝！」

この声は真理奈の声、そうだ僕はまだ死ぬわけには行きません！！

輝「はあ、はあ、来い化け物！」
血だらけで言う輝

「ギャオオオオオオオオオオ！」

姿を現す。化け物

輝「姿を現したね。化け物行きますよ！」
突っ込む輝、そして横腹に蹴りを入れる。壁に打ち付けられた化け物（バイオゲラス？）」

「グギャアアアアアアアア」

悲鳴を上げる化け物、その直後姿を消す化け物そのとき

？「やつはー！」

バツゴーン 体育館の壁を誰かが破壊したようだ。しかも化け物のいる所で

？「おうゝ盛り上がってますねゝ？ん？」

何かが出て行ったようだ・・・

輝「助かりました・・・」

座り込む輝

真理奈「確かに、私何もしてませんが・・・包帯ならここにありま
すから、輝、応急処置でもしましょ」

のび太「自分やくなかったです・・・。あのとりあえず自己紹介よ
ろしいですか？」

？「ごめん、まだ、だったね、私は みなみの 南野 しんや 真也だ」

輝「可愛い子、年下の子みたら、いつもなんぼするロリコン変態で
す。その人は」

真也「たまにお前ひでえな、なんで真理奈ちゃんこんなやつのこと
好 ムグ！」

真理奈『言ったら殺しますよ』ニコニコ

笑いながらすごいこと、言う真理奈

輝「？」

輝、鈍すぎるね〜まったく疑うよb y作者

「私は、星村^{ほしむら}千夜^{ちや}です。」

「自分はデュアル……この小説の作者です。」

千夜以外

「えええええええええ！！！！？？？」

デュアル「なぜ驚きますか？」

真理奈「作者が登場しちゃった・・・」

輝「あなたは、何がしたいのですか？」

デュアル「気分で来た、だけです。そんなことより保健室戻りましょ。」

真也
「（そらされた気が……）」

真也は、そう思いながら、輝、真理奈に付いて保健室に戻って行くのであった

第五話 体育館へ&生存者発見!?(後書き)

デュアル「ふあゝ眠い・・・」

輝「作者、マグナム2丁ください」

ポン

デュアル「ありがとうございます。では」

真理奈 「OSI OKIの始まります」

のび太 「ククククク・・・」

千夜「新年、皆さんがんばってください」

真理奈・輝・のび太

「酷くなるから、終わりです（終わります）」

デュアル「ぎゃあああああああああああああ」

第六話 現状報告かこれ？（前書き）

輝「駄目作者、タイトルなんですかこれ！」

デュアル「その言葉のとおり」

真理奈「つまりぐだぐだなのですね。」

デュアル「はい。その通りです。」

千夜「輝お兄ちゃん、遊んで♪」

輝「おわっと・・・後でね」

真也「とりあえず、あいづら放っておいて、始まるよ」

第六話 現状報告かこれ？

ガラガラ扉を開けて入る

3人

「「ただいま」（もどりました）（もどった）（もどったよ）」

残り3人

「「生存者です（だよ）」

真也「お、かわいいお姉さんと少女発見」

僕「早速ですか、真也来てください」

真也を呼ぶ輝

僕「外へ出ましょう」

真也「わかった」

デュアル「あいつ何も疑わずについて行ったぞ・・・」
言った直後に

？「グフ！腹に一発入れてから紐でぐるぐる巻きって、酷くないか！」

僕「しりませんよ、そんなことレスラーもこんなことするでしょ。」

？「紐でぐるぐる巻きにわしないよ！」

もめているようだ

真理奈・千夜、以外

「あなたは、誰ですか? (誰だ?) (誰なの?)」

デュアル「ん？自分ですか？」

真理奈・千夜、以外

「うんうん」

デュアル「作者ですがなにか不満でも？」

真理奈・千夜、以外

[illegible]千夜
S i d e

私「デュアル兄ちゃんえらいの？」

デュアル「そんなにえらくないよ」

輝「ただいんです。あと吊るす場所ありますか？」

静香「そのすみっこにありますよ。」

普通に教えた静香

輝「ありがとうございます。……これでよしと」

真也「お願いします。誰か降ろしてください・・・うう・・・」

泣きながら助けを求める真也だが皆無視をしている。千夜ちゃんを除いて

私「真也お兄ちゃん大丈夫？」

真理奈、なみに優しい千夜byデュアル

真理奈「千夜ちゃん、こっちおいで」

千夜「はい、真理奈お姉ちゃん今行くよ。真也お兄ちゃんまた後で」

千夜side out

輝side

皆で（真也抜きで）食べるもんを整理6食べていた。

輝「おっ、メ○ジの○ヨコ○ート発見しました。甘いもんほしかったですよ」

真理奈「ファ○タ○レ○プがありました、のど渴いていたんだ♪」

千夜「私、輝お兄ちゃんと食べる♪」

真理奈「私も！一緒に食べます。」

輝「ちょっと二人とも・・・あっ！千夜ちゃんひざの上乗っちゃだ

めだよ!・・・」

デュアル「もてもてだね、輝、でも 鈍いから気づかないんだよね・
・・そう思いませんみな・・・さん?」

のび太「輝さん 殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す」
のび太が狂いました。静香じゃないぞ・・・

輝がもてたらいけないのか・・・

スネ夫「僕のほうがイケメンなのにイケメンなのにイケメンなのに・
・・」
スネ夫まで・・・

ジャイアン「食べ物に毒もって殺してやる殺してやる・・・」
とうとうジャイアンまで狂った・・・

真也「なんでいつも輝なんだよ・・・」
吊らされていて泣きながら言う真也

デュアル「教えてほしいかい?」

真也「教えてください、作者」

デュアル「デュアルでいい、それで、お前がもてない理由かい? 簡単だよ。ロリコン変体、なくせばいい(笑)」

真也「無理ですよ・・・5年以上かかりますよ。それと、(笑) っ
て・・・」
あっさり拒否した

デュアル「考えればわかることだ、お前頭良いんだし、それといい加減、隠さずに能力使えば？」

真也「……気づいてましたか」

デュアル「ああ」

真也「いつか、使う日が来るそう遠くない日にたぶん……」

真理奈の能力コピーしたか？こいつ……byデュアル

デュアル「お前も一緒に食べようよ」

真也「お前人格結構あるな……」

デュアル「ごもつともです。とりあえず行きましょうよ、紐解きますから」

自分軽くなってますね……byデュアル

どんちゃんさわぎしてる皆のに戻る。それから数分後……

ジャイアン「さて、俺らは、あと何度かスーパーを行き来する」

咲夜「私たちも、もう一回ハーブを摘みに行きましょうか」

太郎・静香「はい！（わかりました）」

輝「千夜ちゃんは、あっちで一緒にいてね。」

千夜「はい」

真理奈「輝、相変わらず子供を納得させるのうまいね」

輝「同居している。真理奈あやしてたら、うまくなりますよ。」

真理奈・真也・太郎・千夜・デュアル・以外

[illegible]

デュアル「説明面倒だろ、輝？」

輝「はい、時間がかかります。いつか話しましょう。」

デュアル「武器いる人」

一同

「え？」
「え？」

デュアル「だから武器いる人って、言ってるのです」

のび太「じゃ、12シエルショットガンとAK—47あとコルトパイソンを弾もいくつかください」

デュアル「Ok、ちいと待っておくれや」

そうやって、何もない所から銃が出てきた。しかも、のび太が頼んだやつが

のび太「すごい……しかも本物だ」

デュアル「ほかには？」

のび太除く一同

「「はい（はい）（ください）（頂だい）（くれ）」

言われた武器をあげていく

ジャイアン「じゃ、解散で」

一同

「「おお！！（ええ！！）（はい）」

第六話 現状報告かこれ？（後書き）

デュアル「あけましておめでとうございます」

一同

「あけましておめでとうございます（わん、わん、わん）」

輝「今年ども」

真理奈「のび太のバイオハザード」DEAD OF THE WORLD「を」

真也「よろしく」

一同

「「お願いします（わん、わん）」」

デュアル「1年経っても駄作は駄作です」

輝「駄目作者の小説、今年どもよろしくお願いします」

一同

「「良いお年を」」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6961z/>

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

2012年1月1日22時46分発行